小野町公民館事業

金曜ナイトシネマ

週末の夜は公民館で映画を観よう

人生フルーツ

Life is Fruity



(C)東海テレビ放送

11月27日(金) 18:40開場/19:00上映開始

@小野町勤労青少年ホーム　小ホール

入場無料　各回定員194名(全席自由席)

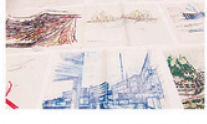


むかし、ある建築家が言いました。
家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない。

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうにかわります。刺繍や編み物から機織りまで、なんでもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。そう、「家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない」とは、モダニズムの巨匠ル・コルビュジエの言葉です。








かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは、阿佐ヶ谷住宅や多摩平団地などの都市計画に携わってきました。1960年代、風の通り道になる雑木林を残し、自然との共生を目指したニュータウンを計画。けれど、経済優先の時代はそれを許さず、完成したのは理想とはほど遠い無機質な大規模団地。修一さんは、それまでの仕事から距離を置き、自ら手がけたニュータウンに土地を買い、家を建て、雑木林を育てはじめました——。あれから50年、ふたりは、コツコツ、ていねいに、時をためてきました。そして、90歳になった修一さんに新たな仕事の依頼がやってきます。

本作は東海テレビドキュメンタリー劇場第10弾。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの楽しみ方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります。

(C)東海テレビ放送

イベント詳細・
申込み（町HP）

申込フォームは
こちら→

ふたりのこと

修一さん
1925年1月3日生まれ。東京大学を卒業後、建築設計事務所を経て、日本住宅公団へ。数々の都市計画を手がける。広島大学教授などを歴任し、自由時間評論家として活動。

英子さん
1928年1月18日生まれ。愛知県半田市の老舗の造り酒屋で育つ。27歳で修一さんと結婚し、娘2人を育てる。畑、料理、編み物、機織りなど、手間ひまかけた手仕事が大好き。

ふたりの本


キラリと、おしゃれ
～キッチンガーデンのある暮らし～
津端英子
津端修一 著
（ミネルヴァ書房, 2007）


あしたも、こはるびより。
つばた英子
つばたしゅういち 著
（主婦と生活社, 2011）


ききがたり
ときをためる暮らし
つばた英子
つばたしゅういち 著
（自然食通信社, 2012）


ひでこさんのたからもの。
つばた英子
つばたしゅういち 著
（主婦と生活社, 2015）


ふたりからひとり
～ときをためる暮らし それから～
つばた英子
つばたしゅういち 著
（自然食通信社, 2016）

最新刊
2017年
11月17日
刊行


きのう、きょう、あした。
つばた英子
つばたしゅういち 著
（主婦と生活社）